

## 第 20 回 奈良県営競輪あり方検討委員会 議事概要

1. 開催日時：令和 3 年 2 月 8 日（月）18:00～19:00

2. 開催場所：奈良県庁 分庁舎 5 階 第 51 会議室

3. 出席者

【出席委員（五十音順 敬称略）】

石黒 良彦 委員（奈良弁護士会）

上垣 憲一 委員（奈良サイクリング協会 理事長）

粕井 憲 委員（南都経済研究所 元顧問）

松岡 宏高 委員（早稲田大学スポーツ科学学術院 教授）

【事務局】産業・観光・雇用振興部 谷垣部長 乾次長

地域産業課 山田課長 吉田課長補佐 鈴木地域産業振興係長 川村主査

競輪場 森本場長 林次長

4. 公開・非公開の別

公開

5. 議事

【開会の挨拶】谷垣部長

【委員長選考】委員の互選により、粕井委員を委員長に選出

【議 題】

○議題 1 「令和 4 年度以降の競輪事業について」

事務局より説明

・委員意見

<粕井委員長>

・平成 28 年の報告に至るまで、施行者として大変な努力を重ねてきたと思う。ガールズケイリンの誘致、受託場外の売り場拡大、車券発売日の拡大、包括外部委託による大幅な経費削減及び借り上げ駐車場の返却など、これらの努力の積み上げの結果が、平成 28 年の報告である。これを受けて競輪事業としてまだまだ将来の可能性があるが、現状の施設設備はあまりに老朽化しており、もっと時代に合わせた施設が必要だという議論を進めてきた。これらの努力により 3 億数千万円の累積赤字を解消したことも含め、年度ごとに記録として資料に記載していただきたいかった。

- ・12月に耐震改修工事の状況を見に、競輪場へ行ってきた。屋根や柱に補強がなされており、耐震上の問題はこれで完了し、今後不要な施設の除却工事を進めていくのだと思う。耐震工事については、大変な工事だったと思うが、見事な出来栄えだった。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響によりスポーツ業界全体で入場者制限を行うなどしていたが、競輪でこのような影響が出ているとは思わなかった。売上増加要因としてインターネット等による投票が大きく増加しているとのことだが、一般に来場者は高齢化していると言うが、インターネット等による投票者のデータはあるのか。

(事務局)

- ・個人情報の関係もあり、整ったデータは手元にないが、来場者は60歳代以上が多く、インターネット等による購入者は40歳代が多いと聞いている。ミッドナイト競輪は20時半から始まるため、仕事から帰って、(ライブ中継などを見ながら)投票いただけることや、インターネットを通じて全国から投票いただけることから、来場者とは購入層が異なると考えている。

< 粕井委員長 >

- ・確かに個人情報の観点から、投票者の属性までを競輪場で把握しきれないのは理解できる。
- ・ミッドナイト競輪は夜の遅い時間なので、インターネット等による投票が大半なのは理解できるが、それ以外(デイ及びナイター)についても、インターネット等による投票が大きな割合を占めており、多額を投じて観客席を整備する必要があるのだろうか。
- ・先ほど、事務局からの説明や私個人の経験も踏まえ、高齢の方がインターネットによる投票を積極的に行っているというのは考えにくいことからすると、若い層が増えているのだろうか。そうすると、これからの時代ニーズに合わせて、インターネット等による投票の売上がより増加するような戦略について様々な視点からメスを入れていくことも必要ではないか。
- ・資料に、新たな民間ポータル委託先と契約とあるが、これはどういうことか。

(事務局)

- ・車券の発売をインターネット等で買えるように民間企業が購入システムを構築し、各施行者がそれらの企業と契約して、インターネット等で車券を発売するしくみ。令和元年度までは3社と委託契約を締結していたが、令和2年度から新たに追加1社と契約を締結。巣ごもり需要を捉え、大きく発売額が増えているところ。

< 鮎井委員長 >

- ・インターネット関連での投票という、新たなチャンネルの開発は本部でいろいろと検討が進んでいるということか。

(事務局)

- ・全国他場や競輪実施法人である J K A と協議をしながら進めている。

< 鮎井委員長 >

- ・令和元年度 G III について資料で説明いただいているが、奈良競輪の春日賞は前年度比 67.4% 減となっているが、全国平均は 8.6% 減となっている。これは、それだけ新型コロナウイルス感染症の影響が大きかったということか。

(事務局)

- ・令和元年度では、奈良競輪の春日賞から無観客・場外発売中止で開催することとなったため、売上が大きく落ち込むこととなった。しかし、G III についてもインターネット等の投票による割合が増えていることや、2月11日から開催を予定している令和2年度春日賞は通常どおり開催することから、令和元年度よりは売上が大きくなるものと考えている。

< 石黒委員 >

- ・インターネット等の投票が今後どんどん増えてくると、家庭で気軽に買えることになるが、未成年が車券を購入できないという問題が出てこないだろうか。

(事務局)

- ・登録時の審査で未成年者は車券が買えない仕組みになっている。

< 上垣委員 >

- ・新型コロナウイルス感染拡大により、奈良サイクリング協会も活動を自粛している状況ではあるが、(ウィズコロナとして) インターネット投票ありきだけで考えるのではなく、(アフターコロナを見据えた) 競輪場の複合的活用として有効利用を考えていく必要があると思う。

< 松岡委員 >

- ・収益拡大を図るための取り組みとして、インターネット投票によるミッドナイト競輪を始めたときに、これでしばらく、奈良競輪は黒字でいけるという手応えがあったと思う。新型コロナウイルス感染症の影響により、益々、インターネット投票による売上が重要になっており、会計上のことだけで言えば、インターネット投票があれば大丈夫ということになる。

- ・これは良いことである一方、極端に言えば、スタンドがなくてもバンクさえあれば、競輪事業だけなら、成り立つことになる。
- ・過去から競輪事業の収支だけの話ではなく、競輪場の複合的活用についても議論してきたので、その2つは少し見方を変えながら考えなければならぬと思う。
- ・地元住民に自転車を楽しんでもらったり、観光客に来てもらったりすることは、競輪事業として黒字に貢献するものではないかもしれないが、(アフターコロナに向けて) 県民サービスという意味で、複合的活用に向けてこれまでの方向性を維持し議論を続けていくことが重要だと感じている。

## ○議題2 「その他」

事務局より説明

### ・委員意見

< 粕井委員長 >

- ・新型コロナウイルス感染症の影響を受けながら、様々な努力により何とか黒字を維持できそうだとのことだが、まだ2月、3月に(春日賞を含め)レースを複数予定されているため、不確実な要素を抱えながら今判断するよりも、現実の着地を見てから、6月ごろに、令和4年度以降の方向性を示すことで良いと思う。

他、委員からも異論なし。

以上